地方独立行政法人 加古川市民病院機構
加古川中央市民病院

きらり

Improving quality of life

地域連携情報誌

vol.48
2024年5月

いのちの誕生から生涯にわたって地域住民の
健康を支え、頼られる病院であり続けます

巻頭言

地方独立行政法人加古川市民病院機構 副理事長
(兼) 加古川中央市民病院 院長

平田　健一

平素より、当院の運営に格別のご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。

これまで入院並びに外来診療が順調に行えてきましたこと、改めて皆様のご支援、ご協力のおかげと心より感謝申し上げます。私は本年３月で神戸大学循環器内科の教授を退職し、４月１日に加古川中央市民病院病院長として着任いたしました。この地域の医療の発展、充実に貢献するべく決意を新たにしております。ご指導、ご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

新型コロナウイルス感染症が国内で拡大し、全国的に診療機能に大きな支障をきたしていましたが、その感染もかなり落ち着きを見せてきました。加古川中央市民病院はコロナ禍においても2016年の開院以来、600床、５大診療センターを中心に33診療科の総合力で高度専門医療、救急医療に取り組んできました。2023年１月からは、新たに呼吸器センターをオープンし、現在は６つの診療センターを中心に高度専門医療に取り組んでおり、2023年度の実績は手術件数8,800件、救急車受け入れ件数8,900件となり、地域の急性期医療の拠点としての役割を果たしています。外来には１日に約1,500名の患者さんが受診され、診療スペースの狭隘化が課題となっておりましたが、この課題を解決し、より充実した診療を提供するために本年３月に増築棟を開設しました。既存棟の改修も進み、８床の緩和ケア病棟を開設し、地域がん診療連携拠点病院として安心で安全な医療を提供して行く所存です。昨年末には病院機能評価Ver3.0を受審し、高い評価をいただき認証されました。これを機会にさらに安全で高い質の医療を提供するよう取り組んでまいります。

本年４月からはいよいよ医師の働き方改革がスタートしました。これまでもタスクシフトや職員の意識改革、業務の効率化を進めてきましたが、さらに病院職員が一丸となって新しい時代に対応できる継続可能な病院運営を心がけ、地域の高度急性期・急性期を担う基幹病院として、急性期から回復期、維持期を含めてこの地域全体の医療・介護の連携を推進してまいります。引き続きご協力、ご指導の程どうぞよろしくお願い申し上げます。

地域への情報発信

2024年度新任医師一覧

所属	氏名	役職名
総合内科	堰本（セキモト） 亮平（リョウヘイ）	専攻医(1)
消化器内科	上田（ウエダ） 佳秀（ヨシヒデ）	科部長
	吉田（ヨシダ） 竜太郎（リュウタロウ）	医長
	今井（イマイ） 明日香（アスカ）	専攻医(3)
	飯田（イイダ） 一裕（カズヒロ）	専攻医(1)
	髙橋（タカハシ） 慧（ケイ）	専攻医(1)
循環器内科	宮崎（ミヤザキ） 恭子（キョウコ）	医長
	竹鼻（タケハナ） 良樹（ヨシキ）	
	髙橋（タカハシ） 拓哉（タクヤ）	専攻医(1)
	長野（ナガノ） 紘平（コウヘイ）	専攻医(1)
	安齋（アンザイ） 想（ソウ）	専攻医(1)
	工藤（クドウ） 大周（タイシュウ）	専攻医(1)
呼吸器内科	長（チョウ） 佳純（カズミ）	
	森田（モリタ） 敦視（アツシ）	専攻医(1)
	戸谷（トタニ） 梨沙（リサ）	専攻医(1)
糖尿病・代謝内科	岩谷（イワタニ） 太史（タイシ）	
	乾（イヌイ） 妃那（ヒナ）	専攻医(2)
腫瘍・血液内科	山口（ヤマグチ） 圭一朗（ケイイチロウ）	専攻医(1)
腎臓内科	齊藤（サイトウ） 慶（ケイ）	主任医長
	高木（タカキ） 泰尚（ヒロナオ）	
脳神経内科	岡田（オカダ） 誠央（セイオ）	専攻医(3)
精神神経科	新藤（シンドウ） 良太（リョウタ）	医長
	印部（インベ） 伸庸（ノブヤス）	専攻医(2)
小児科	近藤（コンドウ） 淳（アツシ）	医長
	杉村（スギムラ） 竜太郎（リュウタロウ）	専攻医(2)
	西井（ニシイ） 悟（サトル）	専攻医(1)
	島田（シマダ） 理穂（リホ）	専攻医(1)
	村本（ムラモト） 梓（アズサ）	専攻医(1)
	中川（ナカガワ） 凪（ナギ）	専攻医(1)
	大塚（オオツカ） 優治（ユウジ）	専攻医(1)

所属	氏名	役職名
外科	吉岡（ヨシオカ） 佑太（ユウタ）	医長
	野添（ノゾエ） 洋平（ヨウヘイ）	専攻医(1)
	有村（アリムラ） 尚人（ナオト）	専攻医(1)
乳腺外科	橋本（ハシモト） 舞雪（マユキ）	専攻医(3)
心臓血管外科	大嶋（オオシマ） 義博（ヨシヒロ）	科特任部長
	吉田（ヨシダ） 和則（カズノリ）	科部長
	中川（ナカガワ） 卓（タク）	専攻医(2)
呼吸器外科	三浦（ミウラ） 賢仁（ケンジ）	医長
小児外科	口分田（クモデ） 啓（サトシ）	
整形外科	茨木（イバラキ） 一行（カズユキ）	医長
	林（ハヤシ） 卓磨（タクマ）	
	後藤（ゴトウ） 紗矢（サヤ）	専攻医(3)
	菅野（カンノ） 龍彦（タツヒコ）	専攻医(2)
形成外科	難波（ナンバ） 祐実（ユミ）	専攻医(2)
	玄（ゲン） 祥樹（ヨシキ）	専攻医(1)
眼科	井上（イノウエ） 紗季（サキ）	
	馬場（ババ） 圭祐（ケイスケ）	専攻医(1)
皮膚科	竹内（タケウチ） 千尋（チヒロ）	医長
産婦人科	三木（ミキ） 満帆（マホ）	専攻医(3)
	森本（モリモト） 始（ハジメ）	専攻医(3)
	田中（タナカ） 将之（マサユキ）	専攻医(2)
泌尿器科	中川（ナカガワ） 竜成（リュウセイ）	専攻医(2)
放射線診断・IVR科	立花（タチバナ） 美保（ミホ）	
	庄司（ショウジ） 忠生（タダユキ）	
	柳田（ヤナギダ） 湖都（コト）	専攻医(1)
麻酔科	山嵜（ヤマサキ） 遼（リョウ）	医長
歯科口腔外科	可信（カシン） 雅彦（マサヒコ）	医長

臨床研修医の紹介

大田（おおた） 峻翼（しゅんすけ）　南（みなみ） 吉郎（よしろう）　佐伯（さえき） 祐哉（ゆうや）　日根野谷（ひねのや） 篤（あつし）（神戸大学たすきがけコース）　岸本（きしもと） 和嗣（かずし）（神戸大学小児科医育成コース）　小山（こやま） 宗亮（よしあき）

谷田（たにだ） 優弥（ゆうや）　篠田（しのだ） 夏子（なつこ）（神戸大学小児科医育成コース）　田中（たなか） 佑実（ゆうみ）（基幹型：産婦人科医育成コース）　三輪（みわ） 茉央（まお）　鈴木（すずき） 逸太（はやた）　吉村（よしむら） 宙（そら）

横田（よこた） 桜（さくら）　大西（おおにし） 未生（みう）（基幹型：産婦人科医育成コース）　西谷（にしやに） 朱穂美（すおみ）　大谷（おおたに） 百香（ももか）　泉（いずみ） 日奈子（ひなこ）　柳内（やない） 麻優（まゆ）（神戸大学たすきがけコース）　西田（にしだ） 菜々花（ななか）（神戸大学たすきがけコース）

新入職医師よりメッセージ

消化器内科

科部長　上田　佳秀

４月から消化器内科にて勤務しております上田佳秀と申します。出身は尾上町で、加古川東高校、神戸大学卒業です。前任の神戸大学では肝臓病を中心に診療しておりました。当院では消化器内科全般を担当します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

腎臓内科

主任医長　齊藤　慶

４月より腎臓内科に赴任しました齊藤慶と申します。

専門は腎臓病診療全般であり、幅広く対応したいと思います。近隣の先生方には多大なご協力を頂きながら、少しでも腎臓病診療でお手伝いができればと思いますので何かあればご相談をいただければ幸いです。

心臓血管外科

科特任部長　大嶋　義博

初めまして、今年４月から心臓血管外科特任部長に着任した大嶋義博です。こども病院では、研修医時代を含め約34年間、その間に富山大学で４年間、計40年弱に亘り、小児の心臓手術に関わってきました。当院では、同じくこども病院から昨年赴任された日隈先生とともに小児だけでなく成人も含めた先天性心疾患の外科治療に取り組んでまいります。幸い、当院では、成人の循環器科も先天性心疾患に対する知識も深く、特に不整脈では強力なサポートをして頂けます。小児の循環器医とも協力して、先天性心疾患を持たれている、あらゆる年齢層の患者さんに対し、より質の高いチーム医療を提供していきたいと考えています。

心臓血管外科

科部長　吉田　和則

本年４月、当院に赴任し、心臓血管外科全般を担当しております。

東播磨医療圏の中核施設としての自覚を持ち、近年の急速な高齢化、重症化、社会のニーズの変化にもお応え出来る様、懸命に取組んでいきたいと思います。今後ともご指導の程、よろしくお願いします。

特集 Featured

放射線治療科 Part1

放射線治療科 主任科部長

橋本　直樹

平素より加古川中央市民病院の診療にご協力いただき、誠にありがとうございます。

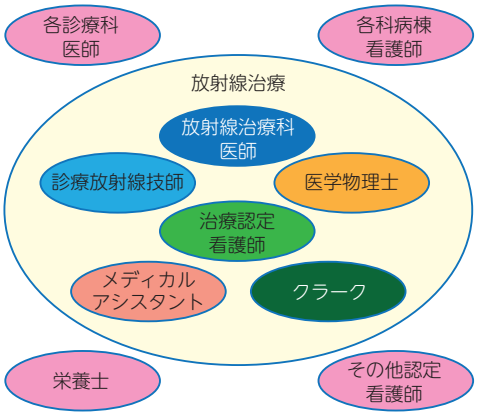
当院では、2019年４月より「放射線科」が「放射線診断科・IVR科」と「放射線治療科」に再編され、放射線治療専門医１名が常勤となりました。放射線治療件数は年々増加し、2021年には常勤医が増員となり、現在常勤医２名、神戸大学医学部附属病院放射線腫瘍科からの応援医師２名（いずれも週１日）の体制で診療に当たっています。

放射線治療は手術、薬物療法と共に、がん治療の三本柱とされていますが、がん患者数の増加と、高齢化に伴いより低侵襲な治療が求められる中、ますます重要な治療方法となっています。しかし、がん患者が放射線治療を利用する割合は、欧米の６～７割に対して、日本では３割程度にとどまっており、放射線治療を必要とする潜在的な患者がまだまだいるものと考えられます。

近年の放射線治療機器や治療技術の進歩により、多くの施設で高精度な治療が可能となり、照射に伴う有害事象の低減や、照射線量の増加による治療成績の改善、治療期間の短縮による利便性の向上などが図られています。当院でも、2020年より乳房温存術後の放射線治療を20回から16回に短縮、2020年秋より脳への定位照射を開始、2022年より前立腺がんの照射を38回から20回に短縮など、より治療を受けていただきやすい環境を整えていっています。また、骨転移による疼痛などに対する緩和照射では、１回の照射で治療を終わらせる方法もあり、何度も通院するのが難しい患者さんでも、入院することなく治療を受けていただける可能性があります。

がん治療においては、まずはしっかり診断をつけた上で、最適な治療方法を検討する必要があり、地域の医療機関の先生方から当科に直接ご紹介いただく機会は少ないですが、当院の主科をはさんで皆様のお役に立てるよう、引き続き努力いたします。

放射線治療は日々進化しており、がん集学的治療の中でも大きな役割となりつつあります。照射方法も多様化し、精度・安全性を確保しつつ、高い品質管理が求められるようになりました。当院の放射線治療スタッフは、放射線治療専門放射線技師が専従し、医学物理士が高度な検証を個々の患者ベースで行うことで、高いレベルの放射線治療を安心して受けていただけるように日々努めております。さらに看護面においても、がん放射線療法看護認定看護師を中心に治療過程で生じる患者さんの身体や心理、社会的問題等をアセスメントし、安全に苦痛なく治療が完遂できるように支援を行います。



がん放射線療法看護認定看護師より

放射線治療は、根治照射から緩和照射と幅広く用いられる治療です。そのため、何度か放射線治療を受ける方も少なくありません。放射線治療による有害事象を極力少なくするために、高精度放射線治療を用いるだけでなく、放射線治療医、医学物理士が工夫をこらして治療計画を立案しています。看護師は幅広い知識や経験を活かし、治療後の生活を見据えた看護を提供し患者さんに寄り添い、共に治療完遂を目指しています。

これからは特に、在宅医療に携わる医療関係者の皆様に向けて、治療中の患者さんの背景や放射線治療効果の見込みについてタイムリーな情報提供システム作りを行いたいと考えています。当院で放射線治療を受けていただくだけでなく、患者さんが在宅に戻った後も困らないシステムを作ることで、スムーズな在宅と病院との繋がりが可能になり同じ視点で患者さんの苦痛に向き合い支援できると考えます。

医学物理士とは

目に見えない放射線を人体に正確に当てるために放射線治療機器の管理を行います。また、がんに対して医師が指示した放射線量をがんに集中させて当てる、かつ他の部位には放射線を当てないように、どの方向からどれぐらいの放射線量を当てるかを治療計画装置で計画します。

主な対応可能疾患

通常照射（根治）:肺癌・食道癌の（化学）放射線治療など通常照射（術前・術後):直腸癌術前、脳腫瘍術後、乳癌術後など
通常照射（緩和）:多発脳転移、悪性腫瘍からの出血の止血・出血予防、骨転移などの疼痛緩和・骨折予防など定位照射:転移のない限局性肺癌・肝細胞癌、1（～3）個の肺転移・肝転移、少数の脳転移
その他、高精度治療:頭頚部癌および通常照射では困難な肺癌・食道癌の（化学）放射線治療、前立腺癌、限局性のリンパ節転移など

治療風景

続き(Part 2) は、次回号(7月号) で
掲載予定です! おたのしみに!!

連携医紹介

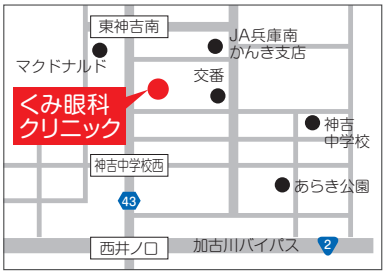
当院と連携いただいている医療機関をご紹介します。

くみ眼科クリニック

診療科：眼科

平成23年兵庫医科大学病院を卒業後、研修医を経て兵庫医科大学眼科学教室に入局いたしました。その後は大学病院をはじめ、たつの市民病院、佐用共立病院、赤穂市民病院、ツカザキ病院など多数の総合病院勤務後、この度令和６年２月に加古川市東神吉町で開業させていただきました。当院では眼科一般診療に加えて白内障手術、眼瞼手術に力を入れております。私事ではございますが小さな子がおりますので診療時間が９時～17時と短く患者さんにはご迷惑をおかけしますが、少しでもお役に立てますよう精一杯頑張りたいと思います。これから地域の皆さまに愛される眼科になれますよう精進してまいりますので何卒よろしくお願い申し上げます。

院長　長谷川 久美子 先生



所在地：加古川市東神吉町神吉921
（キリン堂加古川神吉店敷地内）
駐車場台数：60台

TEL.079-490-9339

診療時間	月	火	水	木	金	土
午前　9:00～12:00	○	○	○	★	○	★
午後 12:00～14:00	※	※	－	－	※	★
午後 14:00～17:00	※	○	○	★	○	－

※…特殊検査、手術日　受付終了は診療終了時間の３０分前です
★…第1・3・5のみ診療
休診日:第2・4木曜日、第2・4土曜日、日曜日、祝日

登録医のご案内

当院では、地域の医療機関の皆様と共同して、より良い医療を提供していくために『登録医制度』を実施しております。現在は350名を超える地域の先生方に登録して頂いております。

医療連携をさらに充実させ、地域住民の要望に応えていきたいと考えておりますので、ご登録でない先生方におかれましては、ご検討いただけましたら幸いです。なお、当院ホームページにも登録医一覧を掲載させて頂いております。

登録医の先生方には、

①開放病床のご利用・開放病床入院患者の手術、検査の立会・当院の診療録等医学資料の閲覧が可能となります。

②当院が主催する学術講演会、カンファレンスなどへ自由に参加でき、当院所有の図書の閲覧、複写も可能となります。

③インターネット予約をご利用いただけます。

患者面会のご案内

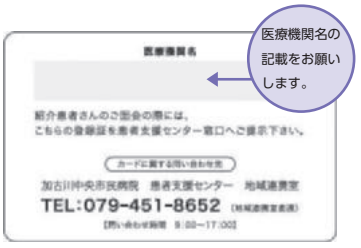
当院への来院時の流れ（ご紹介患者の面会）

1）平日時間内であれば、患者支援センターにある入院支援窓口にお越しください。休日・時間外であれば、総合案内または時間外受付にお越しください。

2）窓口にて上記の開放病床登録医登録証の提示をお願いします。

3）病室に入られる際には、ご持参頂いた登録証を面会カードに入れていただきます。

※スムーズにご案内するためにも事前に当院への来院が予定されている場合には、地域連携室に連絡をお願いします。患者さんへの面会は、当院の面会手順にそって対応します。ご面会できない場合もありますのでご了承お願いします。



地域連携会議の御礼

2024年５月９日㈭に、加古川プラザホテルにて「地域連携会議」を開催いたしました。これまでは、コロナ禍のために開催を見送っておりましたが、５年ぶりに現地開催することができ、多数の方にご参加頂きましたことを改めて御礼申し上げます。

第１部の講演会では、当院の心臓血管センター、消化器センターおよび呼吸器センターの取り組み内容のご説明や、遺伝子診療部のご紹介をさせて頂きました。

また、第２部の意見交換会では、限られた時間ではありましたが、当院のスタッフと活発な意見交換をしていただきましたので、みなさまとの連携を深めるとてもよい機会となりました。今後も、地域医療に貢献できるように様々な取り組みを行ってまいります。

＜第１部＞

＜第２部＞

新体制のご挨拶

患者支援センターは、2024年４月から新たなメンバーを迎えて新体制でスタート致しました。

皆様から信頼され、よりいっそう地域の医療機関、介護関連施設と密接な関係が築けるように日々努力してまいります。そして、皆様にとってこれまで以上に身近な存在となれるよう患者支援センターを運営してまいりますので、どうぞよろしくお願い致します。

地方独立行政法人 加古川市民病院機構
加古川中央市民病院

患者支援センター地域連携室
予約専用 TEL.079-451-8651／FAX.079-451-8653
そ の 他 TEL.079-451-8652／FAX.079-451-8654
https://www.kakohp.jp/medical_person/